

夢と誇り

大西ひでと
後援会報

vol.16
2022年 1月

「明けない夜はない」

皆様、こんにちは。

令和4年(2022年)の新しい年が始まりました。

昨年、秋頃から急速に収束して、比較的落ち着きを取り戻していたコロナ禍の状況は、年明けから感染力が強いとされるオミクロン株を含んだ新規感染者がこれまでにないほど著しく増加をして、予断を許さず、先の見通しは、未だ明確にはなっておりません。

そんな中、私は、今年の抱負を表す漢字を「明」にしました。もちろん、コロナ禍が「明けて」、「明るい」年にしたいという切実な思いからです。

今年は、それぞれ5回目となる「高松国際ピアノコンクール」と「瀬戸内国際芸術祭」が開催される予定です。4年に一度の「ピアノコン」と、3年に一度の「瀬戸芸」が12年に一度、十二支でいうと寅年に同年開催が巡ってくるのです。前回は2010年でした。その年から文化を重視し、観光、経済を振興させようという高松市の「創造都市」としての歩みが本格的に始まったと思っています。ただ、そこに今年は、コロナ禍が立ちはだかっています。

「明けない夜はない」。シェークスピアの四大悲劇の中の一つ、「マクベス」に出てくる有名な台詞です。コロナ禍の状況によっては「ピアノコン」と「瀬戸芸」の開催について、様々な選択肢も検討されようかと思いますが、ポストコロナをにらんで、臨機応変に対応しながら、是非とも高松市の観光復活に向けたエポック・メイキング(画期的)な年となることを期待したいものです。

高松市長 大西 糸人

新型コロナウイルスも落ち着き、今年は、ぜひ我々の総会も市長を囲み開催できることを期待しております。本年は、三月の第五回高松国際ピアノコンクール、春・夏・秋の瀬戸内国際芸術祭など各種のイベントも予定されております。新型コロナウイルスも落ち着き、今年は、ぜひ我々の総会も市長を囲み開催できることを期待しております。本年は、三月の第五回高松国際ピアノコンクール、春・夏・秋の瀬戸内国際芸術祭など各種のイベントも予定されております。



大西ひでと後援会会長 平田 喜一郎

コロナ禍でも進む

重要課題

明けてからおめでたうございます。

昨年は、秋以降あたかも潮が引くように新型コロナウイルスに感染人数が減少してきてきました。今年の感染人数の推移が気になるところですが、ワクチンや治療薬がいろいろ開発されてきておりますので、通常のインフルエンザ並みに落ち着いてくれればと願っております。

さて、後援会活動は令和二年以降、総会・役員会がいにく中止となりましたが、昨年十一月二十七日に感染対策をとりながら、ようやく役員会を開催することができました。

役員会では、大西市長から種々報告がありました。

ウイズ・コロナの中での経済対策を始めとする新型コロナウイルス対策、住民が支えあう地域共生社会の構築、ICT・データを活用したスマートシティ、スーパーシティ構想の推進など、コロナ禍との戦いの中で、市長は着実に重要課題に取り組んでおられます。

本年は、三月の第五回高松国際ピアノコンクール、春・夏・秋の瀬戸内国際芸術祭など各種のイベントも予定されております。

新型コロナウイルスも落ち着き、今年は、ぜひ我々の総会も市長を囲み開催できることを期待しております。

本年が皆様方にとりまして、安らかな年になりますよう念じまして、ご挨拶に代えさせていただきます。

夢と誇り 大西ひでと後援会会報 vol.16 令和4年1月20日発行

編集発行：大西ひでと後援会 〒760-0062 高松市堀上町10-5 池商はせビル1F TEL.087-899-7625 FAX.087-899-7624

大西ひでとの主な活動報告2021

4/18 東京2020オリンピック聖火リレー

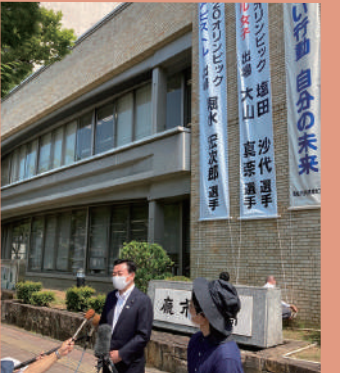


聖火リレーはこの日、県内17市町の最後の区間として、栗林公園から玉藻公園の桜の馬場までの約4km、22区間で行われました。私は本市を代表し、栗林公園で第一ランナーのトーチに聖火を点火した後、玉藻公園で最終ランナーの到着を祝うセレブレーションに出席しました。

東京2020オリンピック競技大会 出場選手懸垂幕掲出

7/13

いずれも本市出身で、男子エアピストルに出場の堀水宏次郎選手と、ハンドボール女子に出場する塩田沙代・大山真奈選手をお祝いする懸垂幕を市役所に掲げました。日本代表には、フェンシング団体の宇山賢選手と牟礼中を卒業されたバスケットボール男子の渡辺雄太選手も選ばれています。



MEMORIAL 東京 2020

10/14 高松市市民 栄誉表彰式



東京五輪のフェンシング男子エペ団体において、本市初の金メダリストとなった宇山賢選手に高松市市民栄誉賞を贈呈させていただきました。併せて、庵治石の台座と、庵治石の粉をガラスに溶かし込んだ「庵治石ガラス」により作成された上部カップからなる記念品をお渡ししました。

パラリンピック採火式 阿部知里選手激励会

8/13



屋島競技場での採火式で、本市在住のパラアスリートである田中司選手とパラリンピックに出場する阿部知里選手と私の3人が、「高松共生の火」としてかがりかごに点火しました。採火式終了後には、パラリンピックに出場する阿部知里選手に対して激励品を贈呈させていただきました。

高松第一高等学校 新校舎棟落成式

9/6

県内唯一の市立高校である高松第一高等学校では、快適な学習環境を確保するため、段階的に施設の全面改築を進めているところです。この度、先行して新校舎棟が完成したのを記念し、2階から3階にかけて設置されている階段状の空間「プレゼンテーションステッ」で落成式が行われました。



ことでん伏石駅前広場完成に伴う オープニングセレモニー

11/6

本市の公共交通ネットワークの核となることでん伏石駅に隣接して整備を進めていた駅前広場が完成しました。本日、グランドオープンに伴うオープニングセレモニーを開催し、主催者の一人として挨拶とテープカットを行いました。今後、駅前広場は多様な乗り物がつながる「交通の要所」となります。



2021 後援会活動報告

1月20日
後援会会報“夢と誇り”第15号を発行
全会員に会費納入依頼と併せて送付いたしました。

6月7日
総会議案を発送
新型コロナウイルス感染症対策のため、例年4月に実施していた役員会及び総会の開催を中止し、総会議案を全会員に送付し、書面により議案審査を依頼いたしました。その結果、提出議案の令和2年度活動報告・収支決算報告及び令和3年度活動方針(案)・収支予算(案)、役員選任・退任(案)はいずれも原案可決承認されました。



11月27日
役員会を開催
新型コロナウイルス感染症の感染者が減少傾向となり、一年半余り開催できなかった役員会を開催し、大西市長から市政の重要課題について講演がありました。(当日の内容は会報本号及びホームページ参照)

大西ひでと後援会事務所



〒760-0062 高松市堀上町10-5 池商はせビル1階
TEL.087-899-7625 FAX.087-899-7624

大西ひでと後援会
http://www.oi-hideto.com/





コロナ禍と経済社会の立て直し

コロナ禍で影響を受けた観光や経済の立て直しを図るため、国や県と連携しコロナ対策を講じてきました。

1 新型コロナ感染の状況

2021年はコロナ感染の第3～5波に見舞われ、特に5波はデルタ株の蔓延で感染者数が急増。9月以降は落ち着いた状況にありましたが、新たな変異株が見つかるなど、年明けから本市においても第6波とも見られる急激な感染拡大が起きています。

2 経済への悪影響

コロナ禍により観光客が激減



高松型地域共生社会の構築

「ほっとけん市民みんなでつくる ほっとかんまち高松。」を合言葉に人と人、人と社会がつながり、一人一人が生きがいを持ち、助け合いながら暮らしていくことのできる、包摂的なコミュニティ、地域や社会を創っていく「地域共生社会」の実現を目指します。

1 地域みんなで助け合う仕組みづくり

地域コミュニティ協議会単位で



3 どんな困りごとにも対応できる仕組みづくり

まるごと福祉相談員や子どもの未来応援コーディネーターによる支援、関係職員のスキルアップ、支援機関同士のネットワーク構築を通して、福祉に関する様々な困りごとに対応します。

【その他の事業】

- 高齢者見守り事業
- 高齢者居場所づくり事業
- 子ども食堂支援事業



スマートシティ、スーパーシティ構想の推進

IoT共通プラットフォームを構築し、防災・観光分野で、データを利活用した地域課題の解決に向けた取り組みをスタート。さらに、最先端技術の活用や分野間のデータ連携によって未来の暮らしを先取りする「スーパーシティ構想」の実現を目指しています。昨年4月には国のスーパーシティ型国家戦略特別区域の指定を受けるため、構想に関する提案書を提出しています。

1 スマートシティ たかまつの推進

- 行政手続きのデジタル化
- スマートシティたかまつ推進協議会の活動

2 GIGAスクール構想とデジタルデバイドの解消

- 教育ICT環境を整備し、個別最適化された学びを実現するGIGAスクール構想を推進。
- デジタルを活用できる人となできない人の格差解消に向け、各種教室や相談会などを開催。

3 スーパーシティ構想が目指す都市像

- どこにいてもデジタルをツールに人と人がつながることにより、人間らしく生活するために必要な交流や時間を生み出す都市「フリーアドレスシティたかまつ(FACT)」。



ウィズコロナ、ポストコロナにおけるまちづくり

市長講演採録

コロナ禍の中、令和2年2月以来叶わなかった大西ひでと後援会の役員会を昨年11月27日、高松国際ホテル2階の瀬戸の間で開催しました。同会では大西市長が約40分間にわたって講演。本市における新型コロナウイルスの感染状況や経済の立て直しに向けた取り組み、まちづくりの重点課題などについて語り、駆け付けた多くの参加者は熱心に耳を傾けました。講演の中から、ウィズコロナ、ポストコロナの時代を見据えたまちづくりの要旨を紹介します。



まちづくりの重点事業

本市では、第6次高松市総合計画の目指すべき都市像「活力にあふれ 創造性豊かな瀬戸の都・高松」の実現に向けて、「地域共生社会の構築」、「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」、「スマートシティの推進」、そして「ゼロカーボンシティの実現」を重点的に取り組むテーマとして、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。



当日の講演映像を後援会ホームページ・YouTubeで放映中！



コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり

都市機能や居住地区の集約に向け、「高松市立地適正化計画」で都市機能誘導区域と居住誘導区域を設定。これらの区域に都市機能や居住の緩やかな誘導を図り、各区域を公共交通で結ぶことで、将来にわたり持続可能なまちづくりの実現を目指しています。

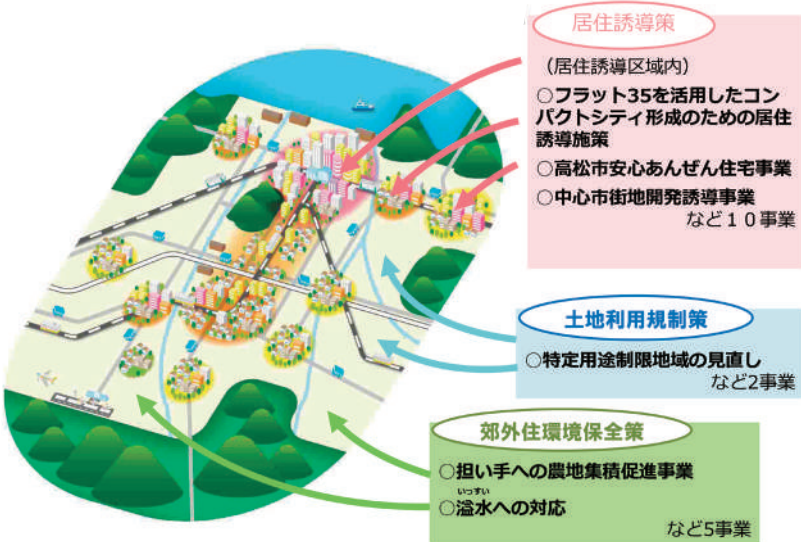
1 立地適正化計画の推進

- ①居住誘導策
長期固定金利の住宅ローン「フラット35」を活用した居住誘導施策のほか、高松市安心あんぜん住宅事業や中心市街地開発誘導事業など、10事業を推進しています。
- ②土地利用規制策
「特定用途制限地域の見直し」と「住宅地開発に係る基準等の見直し」の2事業を実施しました。
- ③郊外住環境保全策
居住誘導区域外でも、都市機能の利便性を享受し、公共交通網など生活に必要な基盤を維持できるよう、「溢水への対応」や「担い手への農地集積促進事業」

2 公共交通網を基軸としたまちづくり

- 多様な交通機関の交通結節拠点の役割を果たす駅前広場を備えた新駅の整備。
- 既存ストックとICカードを活用した、公共交通機関利用の利便性の向上。
- 地域公共交通の再編
都市計画と交通計画を両輪に、集約されたまちを公共交通でつなぐ。
- 公共交通により人が移動することで住居や商店などを集約し、コンパクトシティを目指す。

など5事業を推進しています。



ゼロカーボンシティ宣言と再生可能エネルギーの普及促進

2050年までに市内の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の取り組みを推進します。

1 ゼロカーボンシティ推進

- 再生可能エネルギーの導入目標と実現に向けた具体的な施策の策定。
- 市民のライフスタイルを脱炭素型へ転換するための取り組み。
- 「フードドライブ」支援や、市民の行動変容につながる意識啓発活動。

2 再生可能エネルギーの普及促進

- エネルギーの地産地消を図るスマートハウス等への補助。
- 西・南部の両クリーンセンター、東部下水処理場におけるバイオマス発電。
- 市有施設への太陽光発電システムの設置。
- 太陽光発電事業者への市有地貸出。



その他の観光振興策

第5回高松国際ピアノコンクール 瀬戸内国際芸術祭 高松市中央卸売市場の再整備 塩江温泉郷観光活性化 屋島山上交流拠点施設の整備 など